

令和 6 年度 自己評価

松山デザイナー専門学校

学校法人松山ビジネスカレッジ

令和 6 年 1 1 月 1 日

自己評価の実施について

(1) 学校法人松山ビジネスカレッジについて

松山デザイナー専門学校（旧 専門学校松山ビジネスカレッジ クリエイティブ校）、松山歯科衛生士専門学校、及び専門学校松山ビジネスカレッジビジネス校は、松山市中心部に位置し、学校法人松山ビジネスカレッジが経営する専修学校である。昭和 21（1946）年 3 月、「松山洋裁女学院」として創立され、現在専門学校 3 校、6 学科を設置し、15,000 人余の卒業生を世に送り出してきた 78 年の歴史と伝統のある専門学校である。

(2) 松山デザイナー専門学校 自己評価の実施概要

自己評価は、理事長以下常務理事、校長、管理本部長、進路指導部長、学科長を責任者とし、関係する全ての教職員による評価を反映できるよう実施し、経営陣及び全ての教職員は、法人・学校として目指すべき重点課題を再認識し、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さ等を自ら評価した。

なお、自己評価表の作成については「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に、10 の項目について「1（不適切）～4（適切）」の 4 段階評価で行った。

(3) 自己評価の成果

経営陣は、自己評価の結果を受けて、組織的に重点的に取り組むべきことは何かを把握し、その改善に取り組むことで、組織的・継続的に学校運営を改善することの重要性を示すことができた。

上記を受けて、関係する全ての教職員一人ひとりが、教育の質を担保し、学生がより良い学校生活を送れるよう、学校運営の改善と発展を目指し、不断の努力を積み重ねている。

また、当該評価の成果物である、本報告書を公表することで、安定的・持続的な経営に資する一層の効果が発揮されている。

(4) 自己評価の公表方法及び期間

本自己評価の公表方法は、松山ビジネスカレッジのホームページにその全文を掲載することで公表する。公表期間は、翌年度実施の自己評価の公表の前日までとする。

なお、諸般の事情により翌年度の自己評価が実施できない、あるいは公表できない場合は、ホームページ掲載から 1 年を経過した時点をも、公表の終期とする。

(1)教育理念・目標

回答者	評価項目	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。 (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
学校	学校における職業教育の特色は何か	④ 3 2 1
学校	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱えているか	④ 3 2 1
学校	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に 周知されているか	4 ③ 2 1

【課題】

- ①地域との共存、連携も含めた、社会のニーズに合わせた育成人材像
- ②保護者への学校の理念、特色及び将来構想の周知、共有、理解
- ③ファッション分野の専門職での就職を目指したカリキュラムと実践的な授業展開
- ④入学式後に行う保護者会で学校の教育理念や目的などの周知

【今後の改善方策】

- ①企業や地域社会との連携強化を図り、企業や地域社会が求める人材像に適応し、必要な知識・技術が修得できる学校独自のカリキュラム編成、授業内容となるよう見直しを行う。
- ②保護者に対して、入学前と就職活動前の面談を行なっているが、学生の状況報告となっており、学校の理念や将来構想などの周知を図る。
- ③学校教育の周知の方法としてHPやSNSを活用。学生の成果や授業風景などタイムリーに発信を続ける。

【特記事項】

・大阪から特別講師を迎え、授業を担当していただき授業の幅が広がるとともに、より実践的な授業展開がされ、東京や大阪に出なくてもしっかり学べる環境が整っている。

(2)学校運営

回答者	評価項目	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
管理本部	目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
管理本部	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1
管理本部	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④ 3 2 1
管理本部	人事、給与に関する規程等は整備されているか	④ 3 2 1
管理本部	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4 ③ 2 1
管理本部	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④ 3 2 1
管理本部	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④ 3 2 1
管理本部	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 ③ 2 1

【課題】

- ①当法人の運営方針に沿った事業(募集)計画の実施・検証態勢
- ②教職員の目標管理と育成
- ③情報システム化等による業務の効率化

【今後の改善方策】

- ①事業(募集)計画の達成に向けて、Plan(計画)、Do(実行)、Check(確認)、Action(行動)のサイクルを回していくことが重要であり、月例会議において短期、中期事業計画に対する進捗状況を月次で確認し、今後の対策を協議・決定し実行していく活動を継続し、より一層レベルを高めていく。
- ②令和4年度より教職員の職務上の目標を設定しており、目標達成への道筋を可視化することにより、業務の効率化と能力向上を図っている。今後、組織全体として生産性とモチベーションの向上に繋がるよう適切な目標管理を進める。
- ③これまでの物理的に分離した校務系・学習系システムでは、それぞれ別に端末を整備する必要があり、教員の業務負担増加の一因となっていたが、現在十分なセキュリティを講じたうえでネットワークの統合を行い、端末の一台化や業務の効率化を図っている。

【特記事項】

・教育活動等の情報公開として、授業計画(シラバス)や3つのポリシー(卒業認定・教育課程編成・入学者受入れ)、成績管理等についてHP上に公開している。

(3)教育活動

回答者	評価項目	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
学校	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
学校	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
学校	授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
学校	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
学校	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
学校	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 ③ 2 1
学校	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	④ 3 2 1

【課題】

- ①教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえたカリキュラムの構築
- ②教員の専門分野の先端的な知識・技術の修得や、指導力育成などの資質向上のための外部研修や講習会への参加
- ③関連企業の管理者および現場担当者との情報交換を含めた連携を強化し、企業の求める人物像や技術・知識について教育活動に活かす。

【今後の改善方策】

- ①企業からの要望等を考慮した知識・技術の向上や実践教育の強化、取得を目指す資格等、本校が担うべき教育課程の改善に継続して取り組む。また、学生にも学習目的を明確に伝えることで、意欲向上に繋げる。
- ②外部セミナーなどに積極的参加し、自己啓発とスキルアップに努める。特にアライアンス契約の学校から、研修等の情報を収集して、教員への研修を受講させている。
- ③月に一回業界人を招いて会議を行なっている。業界調査やカリキュラムの見直し、産学連携の確認など、学校活動が業界と乖離しないよう情報交換の場としている。
- ④ファッション業界で著名な大学准教授と業務委託契約を結び、月1回カリキュラムやシラバス作成、教員指導を行っており、今後も引き続き行っていく。
- ⑤多様で実践的なカリキュラムを実施するにあたり、専門性を持った教員・講師を継続して確保するよう取り組む。

【特記事項】

- ・大阪から特別講師を迎え、授業の幅が広がるとともに、より実践的な授業展開がされるようになった。

(4)学修成果

回答者	評価項目	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
進路指導	就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
学校	資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1
学校	退学率の低減が図られているか	4 ③ 2 1
学校	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 ③ 2 1
進路指導	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4 ③ 2 1

【課題】

- ①キャリアアップが叶い職業選択の幅も広がる優良企業、各学科で学んだことが最大限生かせる企業への就職率向上
- ②資格取得率の向上および高い合格率の維持
- ③退学率の低減
- ④卒業生との交流、情報交換の機会を設ける。(現場で活躍する卒業生の特別授業の実施)
- ⑤卒業生の活躍状況の把握とキャリア形成の効果の把握・社会的評価の把握

【今後の改善方策】

- ① キャリア面談の早期実施
入学時からキャリア面談を行い、早期の段階から就職に対する意識を高める。これにより、学生が将来の職業に対して明確な目標を持ち、積極的に活動に取り組めるようサポートする。また、学科で学んだ知識や技術を活かせる企業へのインターンシップの斡旋や、業界や職種理解を深めるための講義の提供、そして求人開拓も強化していく。
- ②資格試験合格率の維持と向上
昨年度実施した資格試験において、すべての分野で今年度の合格率が昨年を上回った。これを維持しつつ、さらなる向上を目指す。特に全国平均を上回る合格率や全員合格を目標とし、模擬試験や実技試験では、反復練習を通じて作業スピードの向上を図る。
- ③退学者が例年数名でいる。学習意欲の継続と、学習落伍者を出さないように、定期的な学生面談を実施。
- ④卒業生とのネットワーク拡充
卒業生とのネットワークを広げ、卒業後のキャリアや進捗状況に関する情報を収集できる体制を整備する。特にWebクリエイター学科は、今年度より卒業生の動向を把握し、学校の支援活動に役立てる。
- ⑤卒業生の就職先訪問とフィードバックの活用
定期的に卒業生の就職先を訪問し、キャリア形成や業務における成長状況を把握する。その情報を基に、学校の教育活動やカリキュラムを継続的に改善し、より実践的な職業教育を提供する。

【特記事項】

- ・専門職で活躍している卒業生に講師となってもらい仕事の内容や実際に社会に出て感じたこと、学生の時にしておいたらよかったことなど、意見を聞くことで就活の参考になるとともに、卒業生の状況把握を行う。
- ・フランスで刺繍職人として活躍中の卒業生の特別授業を行う。

(5) 学生支援

回答者	評価項目	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
進路指導	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
管理本部	学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1
進路指導	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
管理本部	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4 ③ 2 1
管理本部	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
管理本部	学生の生活環境への支援は行われているか	4 ③ 2 1
学校	保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1
進路指導	卒業生への支援体制はあるか	4 ③ 2 1
学校	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 ③ 2 1
進路指導	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④ 3 2 1

【課題】

- ① 学生相談に対する支援体制の整備及び学内共有や保護者との連携強化
- ② 学生、保護者、教員の3者の信頼関係構築及び学生指導の連携
- ③ 社会人のニーズを調査し、授業内容へのフィードバック
- ④ 卒業生への支援体制の整備

【今後の改善方策】

- ① 保護者との連携強化とキャリア支援
保護者との連携に配慮しながら、キャリア教育や相談を積極的に実施する。また、学生に関する重要な情報は学内で適切に共有する。共有に際しては、心理的特徴や学習傾向を把握するためのツールを活用し、個別に最適な指導方法を教員と調整する。
- ② 早期対応による生活面のサポート
出席状況や生活面での問題を早期に把握し、保護者と連絡を取り合うことで、迅速に改善を図る。また、入学直後の保護者説明会や定期的な成績報告、就職活動前の保護者を交えた面談を継続して実施し、保護者の理解と協力を得ながら支援を行う。
- ③ 業界ニーズの調査
定期的に(月1回)、業界の専門家を招き、最新のカリキュラムや必要な機材の調査を行い、社会人としてのニーズに対応できる教育内容の充実を図る。
- ④ 卒業後のキャリア支援と就職斡旋
進路指導部を窓口とし、卒業後もキャリア相談を受け付ける。さらに、離職した場合は希望に応じて再就職の斡旋を行い、卒業後のサポートを強化する。
- ⑤ 就職活動や日常生活の中での心配ごとや不安を解消できるよう、人間環境大学の「こころの相談室」の提携利用など必要に応じて検討する。

【特記事項】

- ・就職活動も含め定期的に面談することで、学生が悩みや相談がしやすい状況を作る。
- ・令和2年度から実施された「高等教育の修学支援新制度」について、修学支援の対象機関となる専門学校として認定されている。
- ・学生全員の定期健康診断を毎月4月に実施し、学生の健康管理に努めている。
- ・新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行後も、引き続き定期的な換気、こまめな手洗い、場面に応じたマスクの着用など、基本的な感染対策の徹底に務める。
- ・ハローワーク主催の就職講座、日本年金機構主催の年金講座等を受講している。

(6)教育環境

回答者	評価項目	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	④ 3 2 1
学校	学内外、実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 ③ 2 1
管理本部	防災に対する体制は整備されているか	4 ③ 2 1

【課題】

- ①専門職を見据えた設備・機材の更新と、働く現場をイメージできる設備の充実
- ②インターンシップや実習、校外研修などの積極的な参加
- ③学生への防災や災害時の避難に関する意識付け

【今後の改善方策】

- ①PC機器、OSや使用ソフト等の情報機器やプリンター、その他必要な機材、設備等について、定期的に更新、充実を図ることにより、常に働く現場に近い環境を整えていくために定期的なチェックを行う。
- ②希望者を募り、定期的にインターシップを実施しているが、受け入れ先の拡大が課題。実施中および実施後のケア。就業体験を実施後の報告会や就職活動への有効活用。
- ②ファッションの研修旅行の継続実施
- ③年1回行う避難訓練や松山市中央消防署から講師を招いて開催している防災・防火セミナーなどを通じて防災への関心を高め、万一の場合に適切に行動できるよう指導していく。

【特記事項】

- ・昨年購入したアパレルCADを有効活用し、作品製作での使用頻度が増加している。
- ・今年9月、韓国の「ソウルファッション職業専門学校」とMOU協定を結び、韓国研修で実施された交流会は学生に大変有意義なものとなった。

(7) 学生の受入れ募集

回答者	評価項目	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
進路指導	学生募集活動は、適正に行われているか	④ 3 2 1
進路指導	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④ 3 2 1
管理本部	学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1

【課題】

- ① 認知度向上のための広報活動として、高校訪問やガイダンスの実施、WebやSNSを活用した情報発信等により、学校の認知度を高める。また、オープンキャンパス等のイベントを通じて、学校の魅力を効果的に伝える
- ② 教育成果を正確かつ積極的に発信し、学校の実績や教育内容の質を広く伝える広報活動を強化する。

【今後の改善方策】

- ① 情報発信の強化
分かりやすいホームページの作成に加え、TVCM、Web広告、SNSを活用した積極的な広報活動を展開し、学校の認知度を向上させる。また、学校訪問やガイダンスによる直接的なアプローチも強化する。さらに、令和6年10月に新駅舎となったJR松山駅からの視認性を活かし、校舎には校名入りの懸垂幕を設置して、より広く認知度を高める。
- ② イベントの強化
オープンキャンパスに加え、ミニオープンキャンパスや入試説明会など、気軽に学校を見学できる機会を増やし、多様な参加者に対応したイベントを充実させる。
- ③ 教育成果のPR
教育成果は、学校案内パンフレット、ホームページ、ガイダンスなどを通じて積極的に情報発信する。特に産官学連携や外部との協力に関する情報をPRし、学校の強みを広く伝える。

【特記事項】

(8)財務

回答者	評価項目	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
管理本部	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④ 3 2 1
管理本部	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1
管理本部	財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1
管理本部	財務情報公開の体制整備はできているか	④ 3 2 1

【課題】

①学生数の変化による収支の変動

【今後の改善方策】

①当法人の中期計画に基づき、単年度予算・収支計画を作成・実行している。少子化の影響等により学生総数が減少しているが、募集活動の改革により学生数の増加に繋げており、各部門の収入(学生募集)と支出(効率化等によるコスト削減)の管理を徹底することや、収益事業についても積極的に取り組むなど中長期的な視野に立ち財務基盤の強化を図っていく。

【特記事項】

・会計監査については、公認会計士事務所による定期的なモニタリングや総合的な監査を計画的に実施しており、適正である旨の評価を得ている。
 ・貸借対照表、資金収支計算書、事業活動収支計算書、財産目録、事業報告書、監事監査報告書をホームページに公開している。

(9)法令等の遵守

回答者	評価項目	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
管理本部	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1
管理本部	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1
管理本部	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4 ③ 2 1
管理本部	自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1

【課題】

- ①個人情報保護のための対策
- ②学校評価の実施および改善への取り組みについて

【今後の改善方策】

- ①個人情報保護に関しては、「個人情報保護規定」により毎年個人情報管理台帳を整備し、個人データを適切に管理し運営しているが、技術の進化等に伴う情報機器の多様化・高度化への対応や、人的セキュリティの徹底など継続的に取り組んでいく。
- ②学校関係者評価については、関連する企業の方、地域の方、卒業生、在校生の保護者などに委員として参画いただいております。委員会において発言された意見等を十分に踏まえて、カリキュラムの改定、教育活動の見直し、募集活動などの質の向上に取り組んでいく。

【特記事項】

- ・自己評価、学校関係者評価については、例年実施し、ホームページに公表している。

(10)社会貢献・地域貢献

回答者	評価項目	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④ 3 2 1
学校	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4 ③ 2 1
学校	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4 ③ 2 1

【課題】

- ①様々な団体から依頼される案件から、学生の学びに繋がる内容の精査。
- ②ボランティア活動への参加の機会確保と奨励

【今後の改善方策】

- ①ファッションに関する様々な依頼がきており、全てに対応することができないが精査し可能な限り参加していきたい。
- ②まず学校の掲示板などで、ボランティア活動の案内を掲示し、授業の中で、ボランティア活動に対する理解を深める機会を増やすことや、学校がボランティア団体と定期的な調整を行うなど、より一層学生がボランティア活動に参加しやすい環境を整えることにより、自発的な活動を支援していく。

【特記事項】

- ・愛媛県で行われる舞台「一粒萬倍」の衣装制作を行なった。今年も新しい衣装を制作中。
- ・松山市のイベント環境フェアで2年連続依頼を受けリサイクルファッションショーを2年連続依頼を受け開催。
- ・テレビ愛媛の番組「吾輩はティモンディ」の衣装制作と取材協力。現在番組で着用されている。
- ・NHK四国の依頼で「四国文化祭2024」に愛媛県代表として参加。愛媛の素材を活かしたアイドル衣装を制作。
- ・県内高校に依頼されての出張授業に教員の派遣している。インターンシップの受け入れを実施。